

行書の学習

今日のねらい

- ① 行書の特徴を理解し、表現できる。

らんていじょ ・おう ぎし

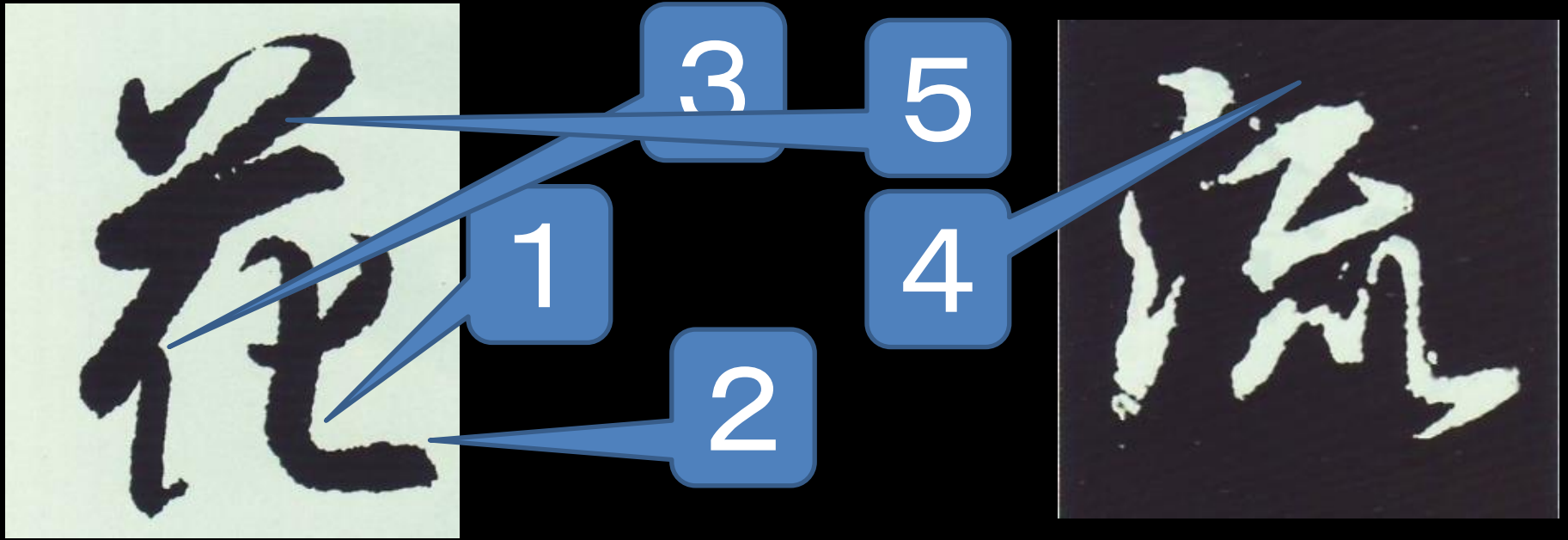
- ② 蘭亭序 ・王羲之について理解する。

行書の特徴 (前回の復習)

・行書の特徴

前回学習しましたが、
覚えていますか？

特徴は、全部で
5つあります



- 1 点画が(**曲** ・ 直)線的
- 2 点画の長さや(方向)が変化する
- 3 点画が(連続)することが多い
- 4 点画が(省略)されることがある
- 5 (筆順)が変わることがある

行書の歴史

行書は、

①篆書(てんしよ)

②隸書(れいしよ)

③草書(そうしよ)

の後に生まれた書体です。

西暦三〇〇年頃



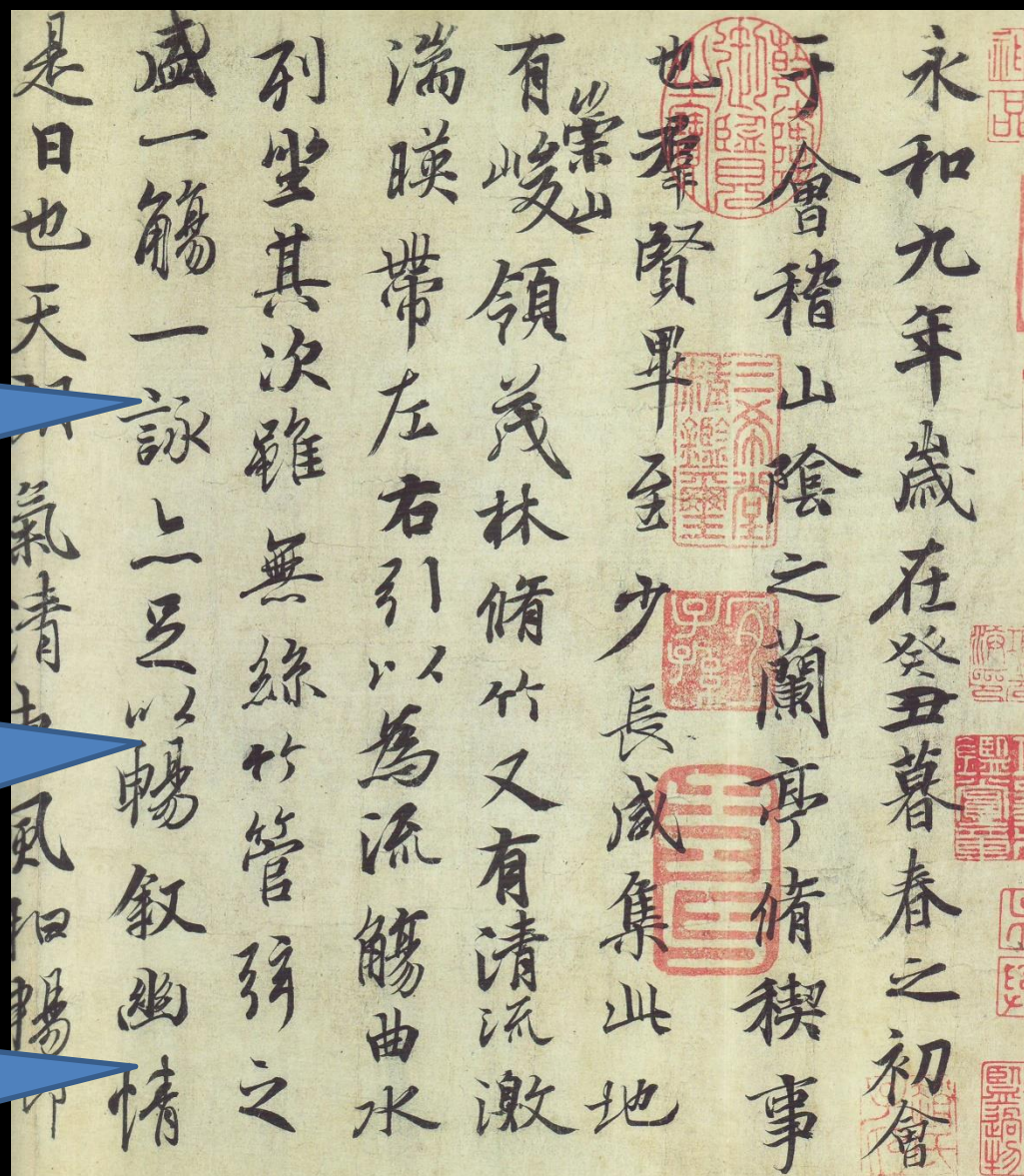
蘭亭序

Q1 この作品について、
気づくこと・おかしい所は
ありませんか？

A1 字の上から塗りつ
ぶしたり、太く書いたり、
横から書き足した部分
がある

Q2 ということは、
この作品は、清書？
下書き？ どちら？

A2 解答は少し後の
スライドで



永和九年歲在癸丑暮春之初會
于會稽山陰之蘭亭脩禊事
也羣賢畢至少長咸集此地
有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以為流觴曲水
列坐其次雖無絲竹管弦之盛一觴一詠亦足以暢叙幽情
是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以游目騁懷足以極視聽之娛取之無窮也
氣是日也天朗氣清惠風和暢

作者 王 羲之(おう ぎ し)について

しよせい

書聖(=書道の聖人

=書道の神様

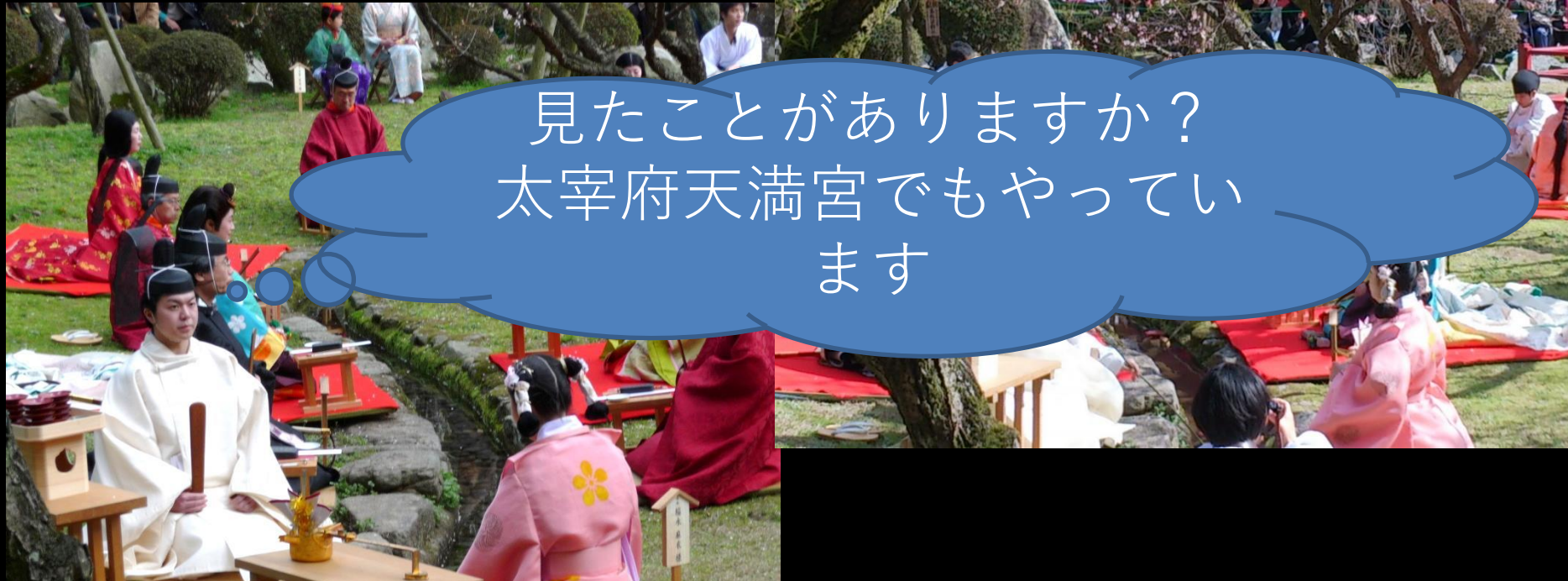
=書道史上NO1)

なぜ、王羲之の作品が
NO1と言われるのか
考えましょう！




蘭亭序(らんていじょ)と曲水の宴

- 王羲之が県知事をしていた当時の領地の
蘭亭という場所に、地域の有名人41人を
集めて宴会をした時に……………



曲水の宴



何をしているか分かりますか？

和歌(5/7/5/7/7)を作っています！

お酒の入れた杯が乗っています。
自分の目の前に来るまでに、
和歌を作れない時は、罰としてお酒を
飲むという宴会です。

蘭亭序(らんていじょ)について

- 王羲之が東晋時代の永和九年(353年)に、
県知事をしていた当時の領地であるの蘭亭という
場所に、地域の有名人41人を集めて宴会をし
た時に……………

できた漢詩を集めて本を作ることになりました。
本の序文(前書き)を誰が書くのか？

宴会の主催者である、王羲之が書くことに……

その場で書いたものを、
家に持ち帰って何十回と書き直しますが、
その場で書いたものに及びません。



その場で書いたものが、清書として残っていくこ
とになりました。



唐の時代(600～)の皇帝、太宗が「蘭亭序」の
複製を作らせることになります。

どうやって、複製を作った
のでしょうか？

何かを綺麗に写し取りたい時
どうしますか？

①原本の上に薄い紙を乗せ、
輪郭を写す。

②輪郭の内側を黒く塗る。

双鉤填墨(そうこうてんぼく)



永和九年歲在癸丑暮春之初會於會稽山陰之蘭亭脩禊事也群賢畢至少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以為流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛取諸之興也每有興懷則流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛取諸之興也



永和九年歲在癸丑暮春之初會於會稽山陰之蘭亭脩禊事也群賢畢至少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以為流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛取諸之興也每有興懷則流觴曲水列坐其次雖無絲竹管絃之盛一觴一詠亦足以暢敘幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰觀宇宙之大俯察品類之盛所以遊目騁懷足以極視聽之娛取諸之興也

永和九年

永和九年

永和九年

出典

- 教科書 教育出版 書道 I